



関経連創立70周年 記念式典・パーティー

2016年10月1日、関経連は創立70周年を迎え、これを記念する式典およびパーティーを10月3日に開催した。式典では、森会長による挨拶のあと、各界から祝意を頂戴するとともに、長年の功労者を表彰。また、大阪フィルハーモニー交響楽団による演奏で幕を開けたパーティーは、日本将棋連盟の谷川浩司会長のご発声で乾杯、終始和やかな雰囲気にも包まれた。

2016年10月3日、関経連では、政官財界から約800名の出席者を迎え、リーガロイヤルホテル大阪にて創立70周年記念式典を開催した。

はじめに、森会長が当会の70年の歴史を振り返り、会員の皆さまや関係者にお礼を述べるとともに、「常に時代を先取りして関西の発展を牽

引する存在でありたい」と挨拶。続いて、安倍晋三内閣総理大臣からのお祝いのメッセージが披露され、その後、来賓を代表して世耕弘成経済産業大臣（中川俊直経済産業大臣政務官ご代読）とキヤサリン・テイラー駐大阪オーストラリア総領事（関西領事団代表）より祝辞を頂戴した。さらに、キャ

ロライン・ケネディ駐日米国大使（アレン・グリーンバーグ駐大阪・神戸米国総領事ご代読）、レ・ルオン・ミンASEAN事務総長からのメッセージを披露した。

また、長年にわたり関経連の発展にご尽力いただいた役員2名を功労者として表彰。小林庄一郎関経連相談役（元関西電力会長）と銭高一善関経連理事（銭高組会長）の功労をたたえ、謝意を表わした。式典にご出席の銭高理事には、森会長から感謝状を贈呈し、ご挨拶をいただいた。

式典の最後には、関経連創立70周年記念事業「はなやか関西セレクトシヨ2016」を披露。選定委員長を務めた村山慶輔やまごご

ころ代表取締役が事業内容を紹介するとともに、授賞商品を発表した（詳細は12頁を参照）。

式典終了後、パーティーを開催。オープニングでは、大阪フィルハーモニー交響楽団が「フルート四重奏曲ニ長調」を奏で、会場は大変華やかな雰囲気にも包まれた。

パーティーでは、井戸敏三関西広域連合長（兵庫県知事）、ラフマツト・ゴベルインドネシア日本友好協会理事長（関経連アセアン経営研修修了生代表）、吉村洋文大阪市長、久和進北陸経済連合会会長からお祝いの言葉が寄せられた。その後、谷川浩司日本将棋連盟会長のご発声のもと、先に紹介があった「はなやか関西セレクトシヨ2016」受賞商品の清酒と梅酒で乾杯。出席者の方々に懇親を深めていただいた。



大阪フィルハーモニー交響楽団による演奏

- ①…森会長による挨拶
- ②…式典の様子
- ③…永年在任役員功労者表彰
- ④…壇上の関経連会長・副会長
- ⑤…「はなやか関西セレクトシヨ2016」の披露
- ⑥…パーティーでの懇談の様子
- ⑦…「はなやか関西セレクトシヨ2016」の展示ブース
- ⑧…谷川日本将棋連盟会長
- ⑨…谷川日本将棋連盟会長
- ⑩…「はなやか関西セレクトシヨ2016」の展示ブース

関経連創立70周年記念式典への 安倍晋三 内閣総理大臣メッセージ

関西経済連合会の創立70周年を心よりお慶び申し上げます。

戦後まもない1946年、関西の経済人が自らの創意と責任感をもつて、日本経済再興に取り組もうと立ち上がられて以来、関経連は、地方分権など時宜を得た政策提言や、関西国際空港やけいはんな学研都市など先進的な地域活性化プロジェクトを通じて、国・地域の発展に尽力されてきました。

最近の10年間を振り返りましても、リーマンショック後の不況や東日本大震災など、わが国経済をめぐる環境は厳しい状況が続きましたが、関経連は、健康・医療を中心とする産業イノベーション強化、アジア地域との経済交流や観光インバウンドの推進など、関西圏の将来の競争力の礎となる事業を積み重ねてこられました。

政府は、成長と分配の経済の好循環を加速することにより、一億総活躍社会の実現を目指すため、リニア中央新幹線の全線開業前倒しやクルーズ船のための港湾整備など「未来への投資」に取り組んでまいります。関経連の活動は、まさにこのアベノミクスと軌を一にするものであり、着実に成果をあげられますことを大いに期待しているところです。

70年の長きに亘り、関西の経済人が連綿と継承されてきた旺盛なチャレンジ精神に深く敬意を表しますとともに、明るく日本を次の世代に引き継ぐことができるよう、皆さまの益々のご活躍とご貢献を祈念し、私からのお祝いの言葉といたします。

戦略を話し合う「未来投資会議」が開催され、経済産業省においても先月13日に、「第4次産業革命」に関する審議会をスタートしました。未来投資の具体的な戦略策定と実行に向けて徹底的に議論していきます。

また、先月26日の臨時国会における所信表明演説で安倍総理も触れられましたが、財政投融资を活用し、リニア中央新幹線の全線開業を最大8年間前倒すこと、東京と大阪を大きなハブとしながら、全国を一つの経済圏に統合する「地方創生回廊」を整えることを、政府としても目指してまいります。

最後に、大阪府では、健康・長寿をテーマとした2025年万博の誘致に取り組まれているとうかがっております。実現すれば、我が国に訪れる観光客が増大し、地域経済も活性化する絶好の機会になると考えます。民間企業、政府、地方自治体が適切に連携を図り、関西経済が発展し、日本経済全体を力強く牽引されることを大いに期待しております。経済産業省が様々な課題に立ち向かう上で、関西経済を担う皆様の御理解と御協力を頂ければ幸いです。

貴連合会のますますの御発展と、御関係の皆様のご健勝をお祈り申し上げます、私からのお祝いのご挨拶とさせていただきます。

（代読：中川俊直 経済産業大臣政務官）



中川 経済産業大臣政務官



テイラー 駐大阪オーストラリア総領事

祝辞

世耕弘成 経済産業大臣

本日、ここに関西経済連合会創立70周年記念式典が開催されるに当たり、心からお慶び申し上げます。

貴連合会は1946年の創立以来、時代を先取りした政策提言を取りまとめられるとともに、その実現に向けて持ち前の行動力を発揮され、わが国の経済社会の発展に大きな貢献を果たしてこられました。

経済産業省としても、森会長をはじめ、歴代会長ならびに会員企業の皆様方から、日頃より貴重な御意見や御助言を頂戴しており、この場をお借りして、改めて御礼を申し上げます。

さて、これまで日本経済は、バブル崩壊後の「失われた10年」、リーマンショック、東日本大震災といった数々の困難に直面してきました。関西においても、企業の本社機能の流出や生産拠点の海外シフトによる空洞化、成長産業の欠如などの課題を抱え、地域の競争力の低下が懸念されておりました。そうした中、関西経済連合会の皆様は2008年に関西の成長戦略として「関西ビジョン2020」をまとめ、グローバル競争に勝ち抜くための行動指針を示されました。その後も「地方創生」、「イノベーション」、「アジアとの交流」をキーワードに、インフラ整備や産業振興に資する事業を精力的に実施されてきました。事業の実施に当たって、関西広域連合や各自自治体、大学・研究機関などと連携し、オール関西としての総力を発揮されてきたことは、地域に根をはり世界を狙う、関西経済連合会ならではの意義深い役割だと思えます。

政府としても、様々な課題に立ち向かうため、あらゆる政策を総動員して未来への投資を加速化してまいります。そして、未来への投資の中核が、人工知能、IoTやロボットをはじめとした技術革新を、あらゆる産業や社会生活の変革につなげる「第4次産業革命」の実現です。先月（9月）の12日には安倍総理の下で、日本経済の成長

祝辞

関西領事団代表 キャサリン・テイラー
駐大阪オーストラリア総領事

関西領事団団長代理として挨拶させていただきます。

森会長、そして関西経済連合会会員の皆さま、ご列席の皆さま、本日は、関西経済連合会70周年を記念する席にお招きいただき、大変光栄に思います。関経連は日本を代表する経済団体として、関西の経済強化、また日本経済のさらなる発展のため、永年多大な貢献を続けてこられました。このたび創立70周年を迎えられたことは、大変おめでたく、心よりお祝い申し上げます。

近年、日本の経済はゆるやかに回復しつつあると考えられ、関西の企業でも積極的な設備投資の傾向が見られます。関経連の皆さまの鋭い戦略、そしてそれに取り組む粘り強さは関西企業全体に勇気と力を与えていると思います。

今後のチャレンジとしては、少子高齢化、人口減少、TPP、安定したエネルギー供給の確保など、さまざまありますが、これらの課題解決にあたっては、引き続き関経連の強いリーダーシップが発揮されることでしょう。また、貿易投資を通じて関西が海外といかに関係を強化できるか、また関西の企業の強みをいかにグローバルに発信できるか、それが今後の関西の発展のひとつのカギになると思います。

関経連は海外との関係強化にも積極的で、視察や訪問などを通じて各国への理解とつながりをさらに深めるよう尽力してこられました。このように育んでこられた相互理解とつながりが、今後に生かされていくと確信しています。55カ国の代表で構成される関西領事団は、1968年の設立以来、関西の可能性・魅力を世界に向けて発信しています。その意味で、関経連と方向性は一致しており、皆さまへの協力を惜しまない存在です。

関西領事団を代表し、関経連ならびに関西のより一層の成功とご発展をお祈りいたします。本日はおめでとうございます。



「はなやか関西セレクション2016」を選定！



福井県
蛇の目洋傘
(株) 福井洋傘



三重県
かまどさん
長谷製陶(株)



滋賀県
ヨシ筆ペン ReEDEN
(株) コクヨ工業滋賀



京都府
胡粉ネイル
上羽絵惣(株)



大阪府
宝つくし最中
浪芳庵(株)



兵庫県
ルーツショール
(有) 玉木新雄



奈良県
DESIGN SETTA SANGO
(株) DESIGN SETTA SANGO



徳島県
藍染め うちわ 段染め
阿波手漉和紙商工業協同組合
(アワガミファクトリー)



特別賞
かきたねキッチンのかきたね
とよす(株) [大阪府]



特別賞
かたやき
(有) 伊賀葉庵山本 [三重県]



特別賞
遊 中川 花ふきん
(株) 中川政七商店 [奈良県]

はなやか関西セレクション2016



(左から) 西林祥平氏、村山慶輔氏、鶴岡優子氏

- ### 5つの選定基準
- ① 過去・現在ではなく、未来の地域の特産品
 - ② 各地の地域性を生かし、時代に合わせたチャレンジをしている地域の特産品
 - ③ 人々のコミュニケーションを誘発することができる地域の特産品
 - ④ 本物志向で目の肥えた外国人旅行者たちが求める地域の特産品
 - ⑤ 背景、歴史、作り手の想い、すべてを紡いだストーリーがある地域の特産品

創立70周年記念事業として、当会では福井県、三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、鳥取県、徳島県の関西10府県の魅力を伝える代表的な特産品を選定し、関西ブランドとして国内外に発信する「はなやか関西セレクション2016」を進めてきた。インバウンドが増え続けるなか、旅行者などに特産品を「思い出の品」として本国・地元を持ち帰っていただき、関西ブランドを普及させることを狙いとする本事業では、インバウンドの専門家として村山慶輔やまところ代表取締役、鶴岡優子 昭文社 D i G J A P A N ! 編集長、西林祥平 トリップアドバイザー 事業開発部長の3名による「選定委員会」が各府県の地域性を生かしつつ、左記の5つの基準をもとに授賞商品10件を選定した。

さらに、各委員の独自の視点で選定した3件に特別賞を授与した。

70周年記念パーティーの会場には、授賞商品のすばらしさを出席者に体感いただくために、直接触れ、試食・試飲していただける展示スペースを設置。今後、観光客向けのウェブサイトで紹介したり、台湾のアンテナショップに展示してプロモーションを実施するなど、関西ブランドとして国内外に広くアピールしていく。

70年の軌跡——年表（創立～2006年まで）

関 経 連 の 軌 跡				関 西 ・ 日 本 ・ 世 界 の 動 き			
1946年	10月	関西経済連合会創立、初代会長に関桂三氏が就任、事務所を旧 大阪商工会議所ビル内に設置	1946年	11月	● 日本国憲法公布		
1947年	2月	第2代会長に飯島幡司 朝日新聞社顧問が就任	1950年	6月	● 1ドル＝360円の単一為替レート実施		
1947年	9月	第3代会長に中橋武一 大阪建物社長が就任	1951年	9月	● 朝鮮戦争始まる		
1951年	10月	第4代会長に関桂三 東洋紡績会長が就任	1952年	8月	● サンフランシスコ平和条約 日米安全保障条約調印（1952年4月発効）		
1955年	4月	「地方行政機構の改革に関する意見」を取りまとめ、発表（道州制を提言）	1954年	12月	● 日本、国際通貨基金（IMF）、世界銀行に加盟		
1956年	11月	第5代会長に太田垣士郎 関西電力社長が就任	1955年	9月	● NHK、東京地区でテレビの本放送開始		
1957年	6月	わが国初の地域間産業連関表、「昭和26年近畿地域産業連関表（200部門）」を発表	1956年	12月	● 神武景気（～1957年6月）		
1961年	10月	第6代会長に阿部孝次郎 東洋紡績会長が就任	1958年	7月	● 日本、GATT（関税及び貿易に関する一般協定）に加盟		
1962年	6月	広域経済圏の観点から西日本の地域開発計画を示した「西日本工業配置試案」を発表	1960年	12月	● 日本、国際連合に加盟		
1964年	9月	関西の産学による経済研究所「関西経済研究センター」を設立	1961年	4月	● 岩戸景気（～1961年12月）		
1965年	6月	西日本各地の経済団体の連携協力を目的に「西日本経済協議会」を設立	1962年	10月	● 国民所得倍増計画を閣議決定		
1966年	11月	第7代会長に芦原義重 関西電力社長が就任	1964年	7月	● 実質経済成長率14・5%（高度成長期の最高）		
1968年	8月	創立20周年記念事業として実施した特別調査「広域行政の経済効果」の調査結果を発表	1965年	11月	● 日本、経済協力開発機構（OECD）に加盟		
1970年	10月	在阪神経済8団体による「関西新国際空港推進協議会」を設立	1967年	8月	● 名神高速道路全線開業		
1971年	9月	在阪経済5団体首脳による「訪中関西財界代表团」を派遣	1970年	3月	● いざなぎ景気（～1970年7月）		
1972年	5月	任意団体から社団法人に改組	1971年	8月	● 東南アジア諸国連合（ASEAN）結成		
1973年	11月	在日ドイツ商工会議所とともに「日独経済交流懇談会」を開催（翌年以降「日独経済会議」と改称）（～1990年）	1972年	2月	● 大阪で日本万国博覧会開催		
			1973年	10月	● ニクソン米大統領、金とドルの交換一時停止、ドル防衛策を発表（ドルショック）		
					● 札幌オリンピック開催		
					● 沖縄 本土復帰		
					● 日中国交正常化		
					● 変動相場制に移行		
					● 第1次石油危機		